

第5回泉佐野丘陵緑地運営会議

日時：2011年1月28日（金） 10：00～12：00

場所：大阪府庁新別館 北館4階 多目的ホール

出席委員（敬称略）

大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 教授 増田昇（委員長）

大阪大学大学院 工学研究科 教授 澤木昌典

元大阪府立大学大学院 教授 前中久行

大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 准教授 下村泰彦

大阪市立大学大学院 工学研究科 准教授 嘉名光市

元読売新聞編集委員 清野博子

泉佐野観光ボランティア協会 吉野勝

うみべの森を育てる会 西台幸子

泉佐野市都市整備部 部長 松下義彦

泉佐野丘陵緑地パーククラブ 副会長 杉本和彦

泉佐野丘陵緑地パーククラブ 書記 大家清信（殿元委員代理）

大輪会 末澤事務局長（オブザーバー）

◆傍聴者

- ・一般 2名

◆進行

- ・資料の確認
- ・会議の公開について

◆議事

○報告案件について

事務局から「H22年度運営会議 開催計画・実績」について報告した。

主な意見

- ・4月から休憩所の利用が可能になるのであれば、利用に関する検討を進める必要がある。パーククラブが休憩所をどのような形で使うのか、公園管理者と打ち合わせをしてうまく活用すべきである。次回の運営会議でパーククラブの活動計画を協議する際に、4月からパーククラブが休憩所をどんな使い方をするのか意見交換を行いたい。パーククラブでもどのような使い方が良いか検討していただきたい。

○協議案件について

事務局から「パークセンター基本設計（再修正案）について」、「コラボレーション区域の検討（再修正案）について」、「H23年度パーククラブ活動方針・活動計画について」を説明した。

主な意見

<協議案件1（パークセンター基本設計（再修正案）について）>

- ・パークセンター設計のポイントは2点考えられる。ひとつは、泉佐野、泉州地域の民家や農家の姿で、懐かしさがあり、地域になじんだ建物としてコンセプトを構築していく考え方である。もうひとつは、新しい公園を作るのであればインパクトのある建物にするべきである、という考え方である。どちらの考え方を採用するかによって、パークセンター設計のコンセプトが変わる。
- ・切妻を合わせるデザインはコストも高くなるという意見が出ているので、その処理を考える必要がある。ボリューム感も落としたいが、完全に2棟に分けると管理が大変になる。一体性を保ちながら、屋根をどう分けるかが課題である。建物のボリュームを落としつつ、泉佐野の農家の建物配置や仕組みをパークセンターに反映させることを考えなければならない。
- ・5案の分棟案では通り庭を配置したり、真ん中にCOMMONスペースとなるような庭を配置することも可能になる。それらの仕組みをどのように反映させるか検討するべきである。2棟に分かれていながら、半屋外的に通り庭などで繋がっている空間の配置をどうつくっていくかが課題である。
- ・5案の分棟案の場合、パークセンターが分離された空間になることで、オープンスペースの手前で人が叫んだときに、建物の中にいるスタッフにその声が届き対応できるかが懸念事項である。離れていても声が聞こえ、コミュニケーションがとれる仕組みを考える必要がある。また、事務局とフリースペースが完全に分離されてしまうことも懸念事項である。
- ・ビジターホールの使い方によって配置が変わってくる。ビジターホールを常にオープンしておく、空調等の維持管理費がかかる。イベントや必要な時にだけ使用するという位置づけであれば効率的である。
- ・ビジターホールやオープンスペースの使い方、特にボランティアカウンターとの接点をどのように設けるかが重要なポイントである。
- ・最も重視すべき点は、ビジターセンターとしての機能である。エントランスに対して来園者が入りやすいデザインで、ボランティアや公園管理者と交流した後に、公園に出ていく形が望ましい。
- ・ビジターセンターは開放した恒常的な利用空間なのか、必要なときだけ使うような空間なのかも事務局で検討いただきたい。
- ・次回の運営会議でパークセンターの基本設計についてフィックスさせたい。

<協議案件2「コラボレーション区域の検討（再修正案）について」>

- ・ため池の水質浄化については、「汚い」の意味を考える必要である。
- ・水質調査をする際の目標はどこにあるのか。農業用水の水質が目指す基準になると考えられるが、調査に入る前に、その基準をクリアできるかどうかを確認しておくべき。
- ・きれいな水に生き物が生息するとは限らないので、現状の生物も考慮すべき。
- ・水質調査は詳細まで調べる必要はない。透明度やBOD、CODを簡易キットで調査できるレベルで良いのではないかと。

- ・園路周辺や下草の管理についても、オーバーワークにならないためにパーククラブと大阪府の役割分担を設定する必要がある。活動の役割を分担しながら、次年度に向けたデータづくりや、池の水の簡易モニタリングを行う必要がある。
- ・まずは池の生物調査を行うべきである。調査をした後に目標をどう設定するべきか。目標を決める際には、どういう生物の生息環境を目指すのかを決めると同時に、樹木の鬱閉度も頭の片隅に入れて目標を設定していただきたい。
- ・園路のルートをつくる際は、インタープリターが説明しながら散策するにはどのようなコースが有り得るのかを考えてほしい。
- ・園路の両側で見どころがつかれそうな部分や、バッファゾーンとしてあまり手入れをしない部分、少し手を入れた方が良い部分など、整備の戦略を立てていただきたい。

<協議案件3「H23年度パーククラブ活動方針・活動計画について」>

- ・地元近隣にはパーククラブの取り組みは知られているかもしれないが、泉佐野市全体ではパーククラブの活動はほとんど知られていない。イベントはパーククラブの活動を知ってもらう良いチャンスである。まずは地元を知ってもらうため泉佐野市報の掲載を考えていただきたい。
- ・タケノコの持ち帰りは難しい問題である。一般的には公園の物は全て公物と見なされる。大阪府でも検討していただき、3月の運営会議でどういう処分の仕方をするのか議論したい。他市の事例では、市の管理者が財産放棄をするという一文を入れた上で、来場者に公園の作物を配るという手続きをとった。ぜひとも話し合うべき点である。
- ・今年度中に会員日より1号を発刊していただきたい。
- ・組織の立ち上げ初期は、一番苦勞するが、その時の情報は残らないことが多い。現時点で発行できなくても情報だけは集めていただきたい。5年経てば公園の様子も随分変わるので、記録していくことは面白い活動になる。広報は楽しいものとして、無理せず記録に残していただきたい。
- ・誰が見てもイベントを実施できるようなプログラムシートを作成し、情報を蓄積していただきたい。

○合意形成事項について

事務局から「第3期パークレンジャー養成講座について」を説明した。

主な意見

- ・将来的には、養成講座の講師をパーククラブに担っていただけるようになってほしい。